

『うい山ぶみ』のメッセージ

教頭 吹野富美夫

『うい山ぶみ』は、本居宣長が著した初心者向けの古典研究の入門書で、学問をする者の心構え、意義、方法等を説いた名著です。本書は、本居宣長が賀茂真淵の助言を受けてから『古事記』の研究に本格的に取り組み、35年間の歳月を費やして『古事記伝』全44巻を完成させた後に、弟子の要望を受けて執筆したもので、その教えは現在も色あせることなく、人生の道しるべになるものです。

『本居宣長「うい山ぶみ」全訳注』を著した白石良夫氏は、本書冒頭の「総論」と呼ぶべき部分から11のキーワードを抽出しています。その内の最初の四つが、学問をする者の心構えに当たります。

一つ目は、「物まなびのすぢ」で、「学問の分野は様々であって、一様でない。」と説いています。

二つ目は、「みづから思いよれる方」で、「どの分野の学問をするのかは、他人がこれと押しつけることはできない。自分が選ぶべきものである。」との教えです。

三つ目は、「怠りてつとめざれば功はなし」で、「学問は、ただ年月長く励み、努力することが肝要である。怠けてしまつては、その成果はない。」との教えです。

四つ目は、「志を高く大きにたてて」で、「必ず極めなければならないと、初めから高い志を立てて勉学に励むべきである。」との教えです。

人生は、まさに登山で、坂道ばかりです。しかし、登頂できた際の眺望、その充実感は、掛け替えのないものです。そして、登頂の次には、さらに高い山が待っています。勝田高校の皆さん、目指す山はどのような山ですか。山頂からの絶景がきっとあなたを待っています。

平成30年6月18日